

第16回 身近なヒント発明展



発明学会大賞受賞作品



ゴミ袋保持具

「天使の羽ゴミ箱」

キッチンのごみ箱は臭い防止のために蓋をされ、いざ使おうにも蓋を開ける煩わしさがあります。このため流し台の扉の取っ手にレジ袋を引っ掛けて、それをゴミ袋にしている家庭が目立つほどです。



松崎康男さん

発明学会大賞に輝いた松崎さんも、キッチンのゴミの処理に悩まされていました。

床に置くゴミ箱では、手狭なキッチンをも更に狭くしてしまう。そこで、キッチンの壁面をうまく利用し、かつスーパーでもらうレジ袋を利用してできないか。そう考えたのです。

まずは、ステンレスの丸棒を細工して設置する方法を考えだし、試作品を何度も作りましたがなかなか上手くいきません。結局、断念することになりました。その後も松崎さんは、何度もホームセンターなどに行き、壁面に合う材料はないかと思案しました。そうした中で目に留めたのは、ポリプロピレン(PP)の板でした。

PP板は柔軟で、強く曲げないと折れ目も付き難いという最適な材料でした。このPP板をどの様に裁断すればゴミ箱ができるのか、色々試作品を作りましたが、どれも気に入るものが出来ませんでした。それでも繰り返しているうちに徐々にある形が決まりました。何やら鳥の羽のようなものが見えてきたのです。それならば一層の事、鳥の羽をモチーフにしたゴミ箱を作ろうと試行錯誤して誕生した作品が、この「天使の羽」ゴミ箱でした。

構造は、鳥の羽の形をした2枚の板と、それを連結する補強板からなっています。これらを組み付けると鳥が羽ばたいている姿のようです。

羽根の頂上からレジ袋の取っ手を引っ掛けると、羽根の先端が、レジ袋の内側に入り込み、レジ袋を開いたまま保持できます。つまり、羽根の先端がレジ袋の口を内側から押し開くように、袋の口は広く開放されるのです。レジ袋にゴミを投げ入

れやすくなります。

また、PP板は柔らかいので、ぶつかってもたわんで、邪魔になりません。

壁面には吸盤で取り付けっていますが、2キロ程度の物を入れても十分な強度と保持力を持ち備えています。吸盤の代わりに、フックでしっかり取り付けることも可能です。

実際に家で使ってみると、使い勝手もよく、知り合いにも使ってもらったところ、非常に高い評価を得ました。

1枚のPP板で構成せず、3枚構成にすることで、パッケージ時コンパクトにできることを考慮した設計にも感心させられます。

「この作品を是非世の中に出して、足の踏み場もない狭いキッチンを少しでも広く使える場所に変えてもらいたいと思っています。また、キッチンだけでなくその他の部屋でも広く使用してもらい、「ごみ箱は床にある物」のイメージを一新して欲しい、この作品を提案しました」と発明者の松崎さんは話してくれました。

発明学会としても、素晴らしい発明を世に出せるよう、サポートしていきたいと思えます。

松崎さん、おめでとうございます。

(森本育男)



作品写真



2キロ程の重量物でも保持可能、袋の口が大きく開く。



レジ袋の取っ手を後ろ側から回し、引っ掛ける。